

【科目情報】

授業コード	1FCB603010	科目ナンバリング	FCALAW84003-J1
授業科目名	環境法		
担当教員氏名	曾和 俊文		
開講年度・学期	2022年度前期	曜日・時限	集中講義
授業形態	講義		
単位数	2単位		

【シラバス情報】

授業概要	<p>環境法の基本原則や基本的な考え方を振り返りつつ、個別の環境分野における環境保護制度の内容を深め、各分野での環境問題の解決方法を検討します。</p> <p>具体的には、まず総論として、環境法の理念、環境アセスメント制度、環境保護の行政手法について取り上げて検討し、次に各論として、公害防止行政、廃棄物処理行政、土壤汚染対策行政、自然保護行政、地球環境保全行政などに関して制度の仕組みとその背景にある環境政策について検討します。各回において、事前に教員が配布するレジメに基づき教員が制度の概略を説明したり、予め指示した事例問題について受講生が報告したりしながら、質疑応答で主題を深めて行きます。</p>
到達目標	<p>環境法の基本的な考え方や個別の環境保護制度の仕組みに関する基本的な知識を学び、環境問題に関する法的分析能力、法的対応能力を身につける。</p> <p>環境保護に関連する具体的な紛争を素材として、紛争解決に必要な基本知識を確認し、当事者の立場に立っての主張・立証の仕方を学び、適切な紛争解決の在り方について検討する。</p>

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	環境法の理念と体系：環境法の歴史（公害対策法から環境法への展開）をたどりつつ、環境法の理念と体系について考える。	環境法の基本的なテキスト（下記の「参考文献」参照。授業では基本書を指定する予定だが、現段階では何を指定するのか、未定）の該当箇所を事前・事後に読むことを求めます。
第2回	環境法の基本原則：環境基本法の仕組み、環境法の基本原則、環境基本計画などについて学ぶ。	同上
第3回	環境アセスメント制度：環境アセスメント制度の仕組みを学ぶとともに、環境アセスメント制度運用の現状と課題についても考える。	同上
第4回	環境行政の手段（1）：公害規制法制と権力的手法、実効性確保の仕組みなどについて学ぶ。	同上
第5回	環境行政の手段（2）：非権力的手法と協調的法的執行、経済的手法について学ぶ。	同上
第6回	廃棄物処理行政：廃棄物処理法の法的仕組みについて学ぶ。	同上

第7回	土壌汚染防止行政：土壌汚染対策法の法的仕組みについて学ぶ。	同上
第8回	循環型社会形成法制：容器包装リサイクル法などの循環型社会形成法制度について学ぶ。	同上
第9回	自然環境の保全法制：自然公園法や自然環境保全法などの自然保護の法制度の仕組みについて学ぶ。	同上
第10回	地球環境保全の法制：地球温暖化問題に対する国際的、国内的な取り組みについて学ぶ。	同上
第11回	環境行政における紛争処理法制：公害等調整委員会や公害審査会による公害問題の解決の仕組みについて学ぶ。	同上
第12回	環境行政訴訟(1)：環境問題の司法的解決の仕組み、とりわけ行政訴訟について学ぶ。	同上
第13回	環境行政訴訟(2)：環境問題の司法的解決の仕組み、とりわけ民事訴訟、住民訴訟について学ぶ。	同上
第14回	事例演習(1)：事例問題を素材として、環境紛争の具体的な解決のありかたについて学ぶ。	事前に事例問題を出題し、授業前までに答案を作成し、提出することを求める。
第15回	事例演習(2)：事例問題を素材として、環境紛争の具体的な解決のありかたについて学ぶ。	事前に事例問題を出題し、授業前までに答案を作成し、提出することを求める。
第16回	期末試験	

<b>成績評価方法</b>	<p>絶対評価 先に挙げた到達目標の達成度に照らして評価を行う。 具体的には以下の評価方法に従う。 授業への参加度 30%……評価のポイント：授業中の報告内容、授業中の発言内容などを考慮して評価する。 期末試験 70%……評価のポイント：事例問題について結論を導き出す法的論理の適切性などに基づき評価する。 合格のための最低基準としては、上記の評価法法に基づく評価で6割以上の評価を得ることとする。</p>
<b>履修上の注意</b>	<p>本授業では、教員が事前に配布するレジメに基づいて授業を進めます。ただし、授業で取り上げるテーマについて、以下の参考文献で挙げるような、基本的な環境法のテキストで、授業で取扱部分を予習・復習して下さい。</p>

教科書	教科書は特に用いません。（毎回、教員が作成したレジメに基づき授業を行います）。しかし、以下の参考文献のいずれかを基本書として指定して、授業の前後に予習復習することを求めます。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 北村喜宣『環境法[第5版]』（弘文堂、2020年）</li> <li>◎ 大塚直『環境法BASIC[第3版]』（有斐閣、2021年）</li> <li>◎ 越智敏裕『環境訴訟法[第2版]』（日本評論社、2020年）</li> </ul>
その他	